7・つつ ページがない

Anchor
アンカー

各時代のカインとアベル

信仰による義認を継承する教会の歴史と戦い

あなたはどちらか？

第18号

目次

各時代のカインとアベル 1
舞台Ⅰ アベルＶＳカイン 5
舞台Ⅱ ユダヤ教ＶＳ異教 7
舞台Ⅲ キリスト教(初代教会)ＶＳユダヤ教 9
舞台Ⅳ 荒野の教会ＶＳローマ・カトリック 11
舞台Ⅴ プロテスタントＶＳローマ・カトリック 13
舞台Ⅵ セブンスデー・アドベンチストＶＳ背教プロテスタント 15
舞台Ⅶ 二種類のセブンスデー・アドベンチスト 17
舞台Ⅷ 最後の戦い 19
預言の霊より参考引用文 24
新刊のご案内 27

各時代のカインとアベル

信仰による義認を継承する教会の歴史と戦い

あなたはどちらか？

「人はその妻エバを知った。彼女はみごもり、カインを産んで言った、『わたしは主によって、ひとりの人を得た』。 彼女はまた、その弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。 日がたって、カインは地の産物を持ってきて、主に供え物とした。アベルもまた、その群れのういごと肥えたものとを持ってきた。主はアベルとその供え物とを顧みられた。しかしカインとその供え物とは顧みられなかったので、カインは大いに憤って、顔を伏せた。. . . カインは弟アベルに言った、『さあ、野原へ行こう』。彼らが野にいたとき、カインは弟アベルに立ちかかって、これを殺した。」創世記4：1－5，8

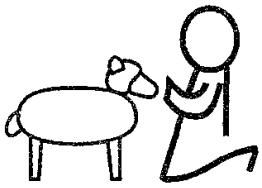
世には多くの宗教、多くの教派がある。そのために多くの混乱と醜い争いさえある。しかし、神の前にはこの世界に二種類の人間が存在するだけである。

「カインとアベルは、終末に至るまで世界に存在する二種類の人々を代表している。一方は罪のために定められた犠牲を受け入れるが、他方は、あえて自分の功績にたよろうとする。」人あ上68

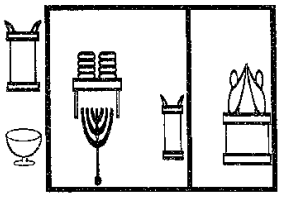
神に定められた方法に従ってキリストの功績に頼る者と、自分で自分を救おうとする者は、それぞれ共同体一教会を作る。各時代、神からの光でテストされ分離し、また結集する。それが繰り返されてきた。「終わりの時」が来て「残りの民」セブンスデー・アドベンチストが諸教会から分離してアベルの信仰を証しする者として起こされた。しかし、SDAも例外なく最後のテストを受ける。今、それぞれの宗派、教派の中にいるアベルとカインが分離、結集する時が迫っている。我々は歴史のそれぞれの舞台に二種類の人々を見る。そして我々はひとりびとり、最後の舞台でどちらの側につくか決断を迫られる時がまもなく来る。最後のテストが来る時、アベルの信仰を持つ者のみが真の安息日遵守者として立ち得るのである。

終末に至るまでの

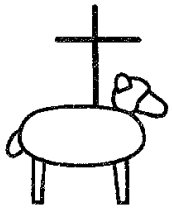
キリストの功績



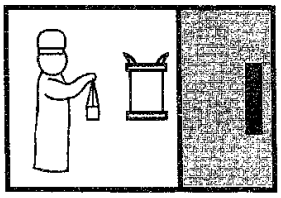
アベル



ユダヤ教

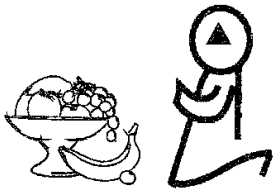


初代キリスト教
（初代教会）

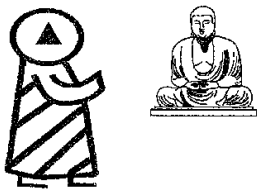


荒野の教会

人間の功績

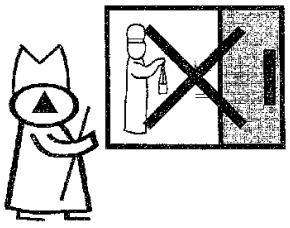


カイン



異教

ユダヤ教



ローマ・カトリック

「カインとアベルは、終末に至るまで世界に存在する二種類の人々を代表している。一方は罪のために定められた犠牲を受け入れるが、他方は、あえて自分の功績にたよろうとする。」人あ上68

「人は自らのわざによって自分自身を救うことができるという原則が異教のすべての宗教の根底にあった。」希望上26

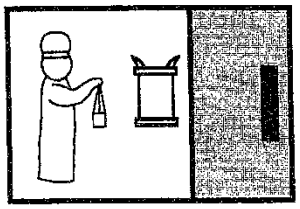
「人は自らのわざによって自分自身を救うことができるという原則が異教のすべての宗教の根底にあった。この原則がこんどはユダヤ人の宗教の原則となっていた。」

希望上26

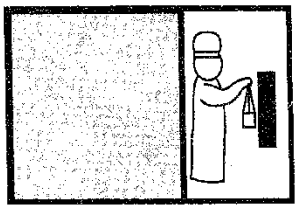
「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることがないためなのである。」

エペソ2:8, 9

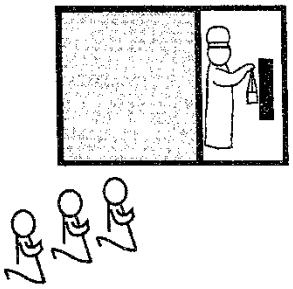
2種類の人々



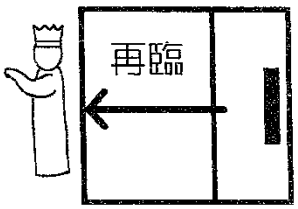
プロテスタント



SDA

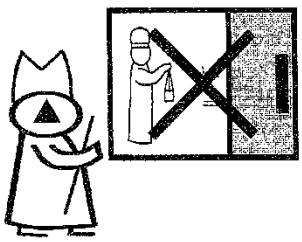


至聖所に向かって...

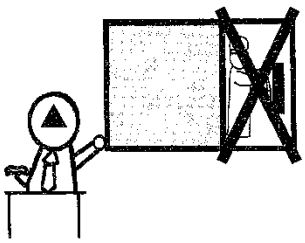


144,000

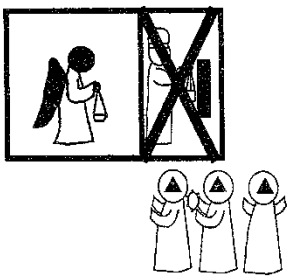
大宗教連合



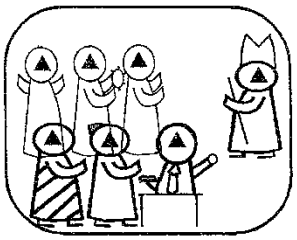
ローマ・カトリック



背教プロテスタント



聖所に向かって...



666

「法王制は...全世界を包含する二種類の人々——①自分の功績によって、救われようとする者と、②罪の中にあって救われようとする者——のために用意されている。ここにその権力の秘けつがある。」大争闘下330

「諸教会が、第一天使の使命を受けることを拒んだときに、彼らは、天からの光を拒否し、神の恵みを失った。彼らは、自分たち自身の力に頼った。」

初文390, 391

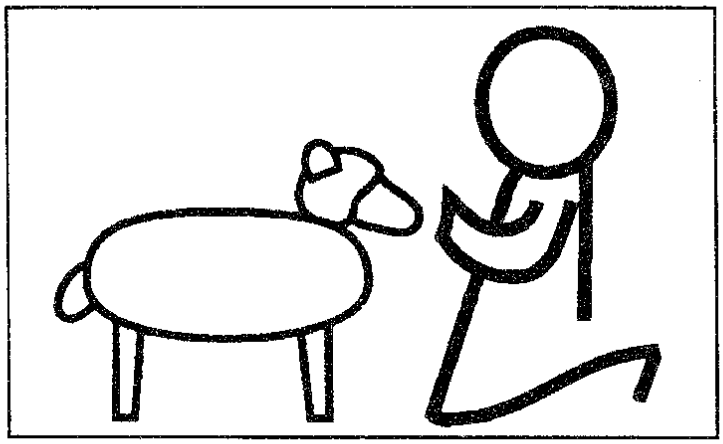
「至聖所のイエスを信仰をもって仰いで、・・・祈るのであった。すると、イエスは、彼らに聖霊を注がれた。・・・(ある人々は)御座(聖所)を見上げて、・・・祈るのを見た。するとサタンは、彼らに汚れた力を吹きこむのであった。」初文126

教会はふるわれ、清められ、後の雨を注がれ、「光と義で武装し、最後の戦いに突入する。」

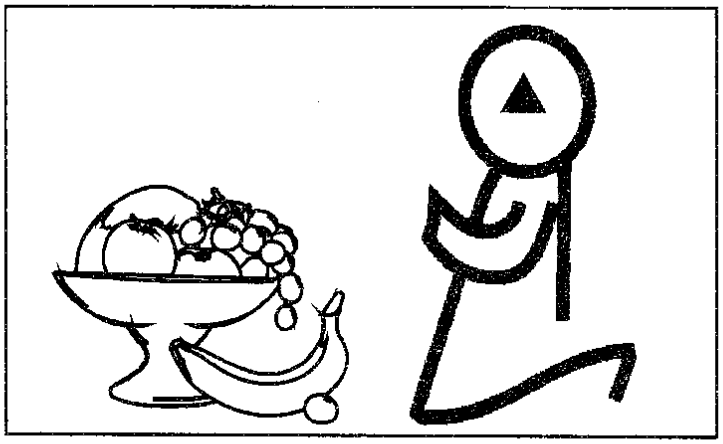
TM17(初文439)

それが悪人たちを「刺激し、怒らせる。」

初文440



アベル



カイン

舞台Ⅰ　アベルＶＳカイン

「信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけにえを神にささげ、信仰によって義なる者と認められた。神が、彼の供え物をよしとされたからである。彼は死んだが、信仰によって今もなお語っている。」ヘブル11:4

アベル：

アベルは神の権威を認めて、神に忠誠を尽くした。「神の処置に義と恵みを認め、感謝して贖罪の希望を受け入れ」（人あ上65）、彼は「神をおそれ」るゆえに、「お言葉ですからそうします」と神のご命令に従うのである。

自分の功績、業、行いに頼ることはせず、常に自分の必要を感じ、自分の欠乏感、罪の自覚を持っている。悔い改めと信仰によって神に来て、愛によって働く信仰によって従うのである。そして、服従によって神を愛していることを証しする。

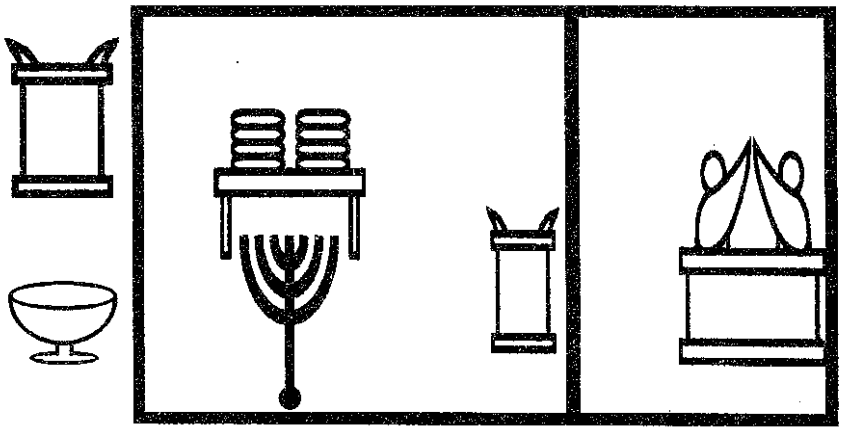
「キリストに全的によりたのむ<u>真の信仰は、神のすべての要求に従うこととなってあらわれる</u>。」人あ上69

アベルの信仰はそのようなものであった。

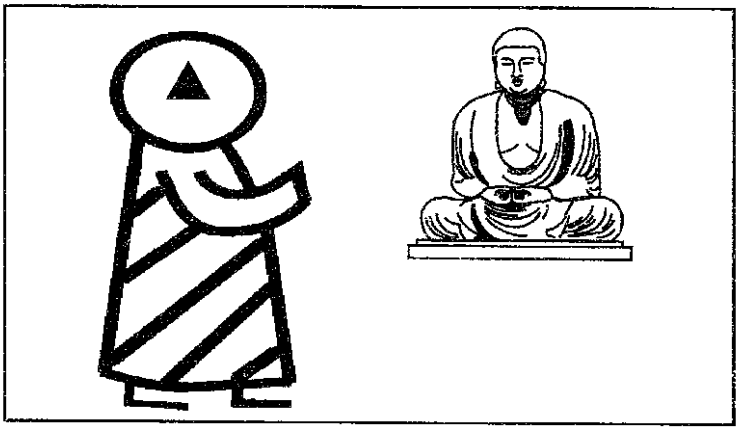
カイン：

カインは神の権威と義を認めず、自己信頼、自己義認、自己称揚から行動する。「主の直接で明白な命令を無視して、地の産物だけをささげ」（人あ上66）、「お言葉ですが、しかし、...」と自分の考えで神の言葉を解釈する。自分の方法に従うのである。ご都合主義である。「かわいい動物たちの命を断ち血を捧げるというのは、愛の神がそんな事を要求するはずがない。地の最もよい産物を神に捧げたら、きっと神はお喜びになるはずだ。自分の勤労の実を感謝をもって捧げよう...」。これがカインの信仰である。

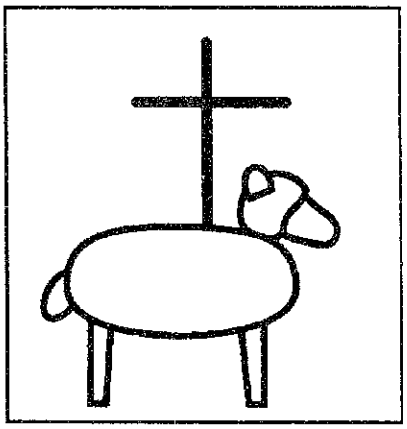
カインの考えは今日のヒューマニズム、人道主義、博愛主義と同じである。神をぬきにした人間のどんなすばらしい考えも業も人間を救う事ができない。それらは「地の産物」にすぎない。罪のゆるしのためには血、しかも神の小羊の血が流されなければならない。カインは自分の必要感、欠乏感を持たずに、罪の自覚なしに、「自分を義であると考え、感謝のささげ物をもってきただけで」（キ実132）なのである。



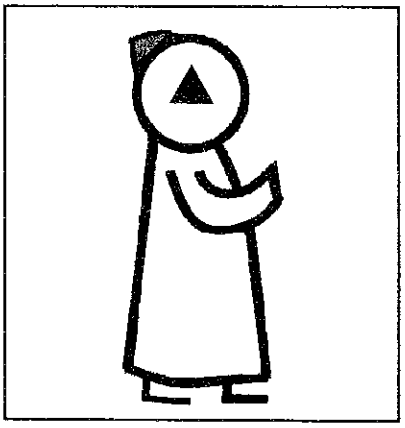
ユダヤ教



異教



初代キリスト教
（初代教会）



ユダヤ教

舞台Ⅲ　キリスト教(初代教会)ＶＳユダヤ教

キリストは、ご自身が天から来られて、人間が成し得ないことを人間の代わりになさった。彼は、人間は自分で自分を救うことができないこと、信仰による義、信仰による従順を、①ご自分の生き方、②その業、いやし、③その教えによって証明された。こうして「義人は信仰によって生きる」(ローマ1:17)というキリスト教原則の基礎が据えられたのである。

キリスト教（初代教会）：

彼らは、自分たちのために贖罪の犠牲として捧げられ、全能の仲保者として天の聖所で、十字架で流された血をもって執り成すキリスト、そして再臨なさるその方を伝えて命を惜しまなかったのである。

「主は、わたしたちの罪過のために死に渡され、わたしたちが義とされるために、よみがえらされたのである。」ローマ4:25

「そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである。」ヘブル7:25

人間の無能力と神にはできないことはないことを徹底的に教えられた使徒たちは、「すべての異邦人を信仰の従順に至らせる」福音のゆえにカイン型信仰者、律法学者、パリサイ人、サドカイ人から憎まれたのである。初代教会、荒野の教会もしかりである。

キリスト教会は「聖徒たちによって、ひとたび伝えられた信仰のために戦」ったのである(ユダ3)。

ユダヤ教：

「人は自らのわざによって自分自身を救うことができるという原則が異教のすべての宗教の根底にあった。<u>この原則がこんどはユダヤ人の宗教の原則となっていた</u>。」

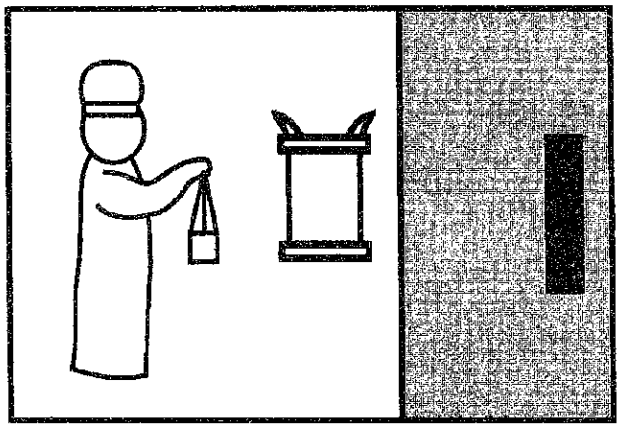
希望上26

しかし、彼らは神が与えられた特権を誤用したため、「異教の世界は、神の品性とみ国の律法を誤解するようにな」り(キ実268−271)、カインの宗教の原則に凝り固まったユダヤ人や指導者たちは、カインの憎しみをもってキリストを十字架につけてしまうのである。

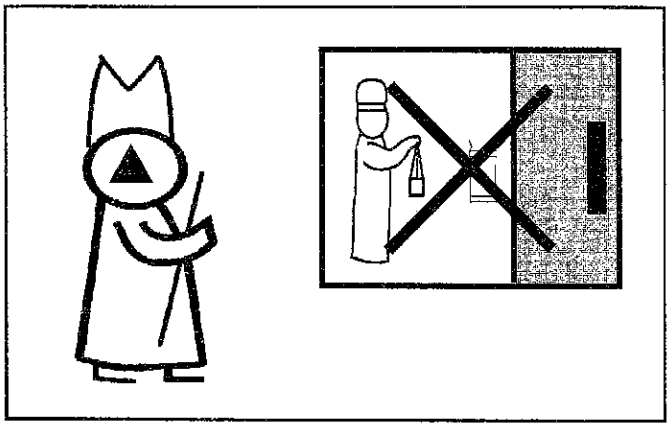
「彼(キリスト)は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかった。」

ヨハネ1:11

しかし、それでも満足せず、彼らの殺意はその弟子たちにも向けらたのである。



荒野の教会



ローマ・カトリック

舞台Ⅳ　荒野の教会ＶＳローマ・カトリック

荒野の教会：

黙示録によると「女は荒野へ逃げて行った。そこには彼女が1200日の間養われるように、神の用意された場所があった。」(12:5)キリストの真の教会のことである。1200年にわたる暗黒時代、使徒たちから継承した純粋な真理を持って迫害のゆえに人目につかない状態で証しし続けた。

「幾世紀にもわたってワルド派のキリスト者たちが信じ、教えてきた信仰は、ローマから出た偽りの教義と著しい対照をなしていた。. . . 彼らの信仰は、新たに受けた信仰ではなかった。彼らの宗教的信念は、彼らの先祖から受け継いだものであった。彼らは、使徒時代の教会の信仰、すなわち、『ひとたび伝えられた信仰』を強く主張した(ユダ3)。世界的な大都市に王座をかまえた高慢な法王制ではなくて、この『荒野の教会』がキリストの真の教会であり、世界に伝えるために神がご自分の民にゆだねられた真理の宝の保管者であった。. . .

彼らは混ぜ物のない真理を持っており、そのために、特に憎しみと迫害とを受けたのであった。」大争闘上64, 65

ローマ・カトリック：

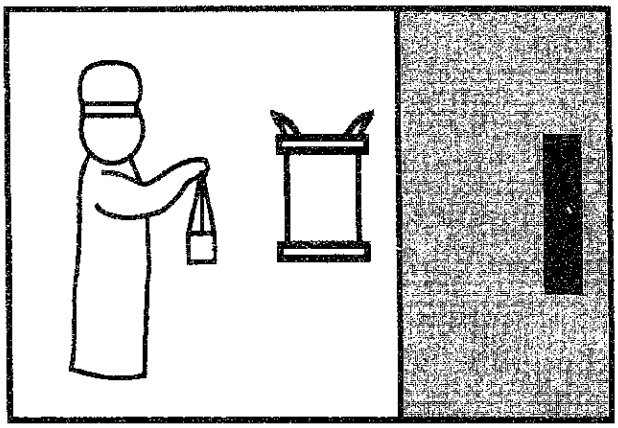
サタンは純潔なアベルの信仰を持つ者たちを権力、迫害で撲滅しようとしたが、成功しないのを見て、妥協政策をとる。キリスト教を異教と結合させることによって、神の救いの方法を崩そうとした。その結果誕生したのが、ローマ・カトリック教会であった。そのカインの中に二種類の人々がいる。

「法王制は. . . 全世界を包含する二種類の人々——①自分の功績によって、救われようとする者たちと、②罪の中にあって救われようとする者——のために用意されている。ここにその権力の秘けつがある。」

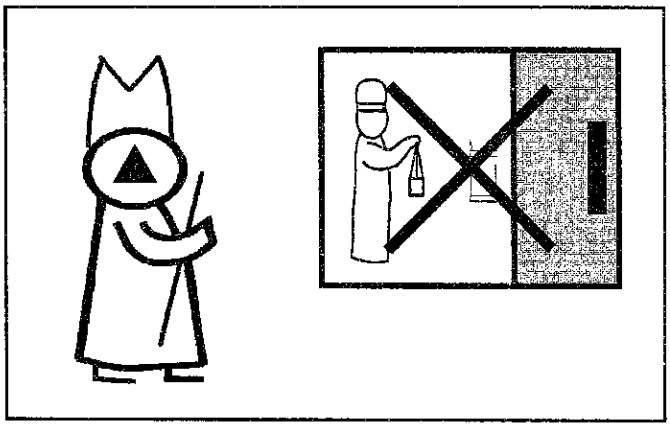
大争闘下330

ローマ・カトリック教会は「サタンの権力が生んだ一大傑作で」ある(大争闘上44)。中世の長い暗黒時代、サタンは勝利したかのように見えたのである。

「彼らは、アベルが神を恐れないカインに憎まれたように、悪人たちに憎まれた。カインがアベルを殺したのと同じ理由から、聖霊の抑制を拒む人々は神の民を殺した。ユダヤ人が救い主を拒んで十字架につけたのも、同じ理由からであった。すなわち彼の品性の純潔と神聖さとが、絶えず彼らの利己心と堕落とを責めたからであった」大争闘上39。



プロテスタント



ローマ・カトリック

舞台V　プロテスタントVSローマ・カトリック

プロテスタント：

荒野の教会は、アベルの信仰を継承し、カインの精神を帯びたローマ・カトリック教会の憎しみ、激しい迫害に耐えてきた。彼らはアベルの信仰をプロテスタント運動に譲り渡す。

神はローマ・カトリック教会の中で光を求めていたウイックリフを、宗教改革の必要に目覚めさせ、エラスムス、ルター、ティンデルを刺激した。エラスムスは聖書を原語のギリシア語で出版した。彼らがワルデンセスの純粋な聖書に触れることにより、ヨーロッパに宗教改革の火が灯された。彼らはローマ・カトリック教会に抗議し、それから分離した人々はプロテスタントと呼ばれるようになった。彼らは十字架の犠牲と天の聖所の仲保者イエスに人々の心を向け、キリストの業に頼る信仰を復興したのである。そして、「信仰による義」の福音が中世時代に明るく輝いたのである。

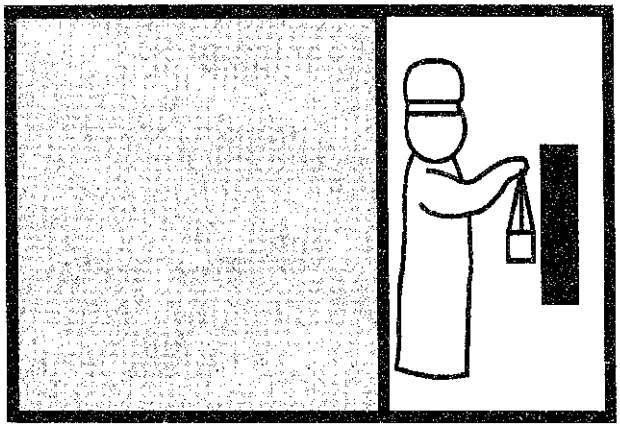
ローマ・カトリック：

ローマ・カトリックはキリストによる救いの方法を歪めた。キリストの一度だけ捧げられた血をミサに、唯一の仲保者キリストの代わりに、法王、司祭、神父が立ち、人間の告白を受ける。また、法王無謬説、滴礼、幼児洗礼を持ち込み、教会、伝統、外典を権威とした。そして神の権威を崩すために、神の律法をも変え、安息日を変えたのである。

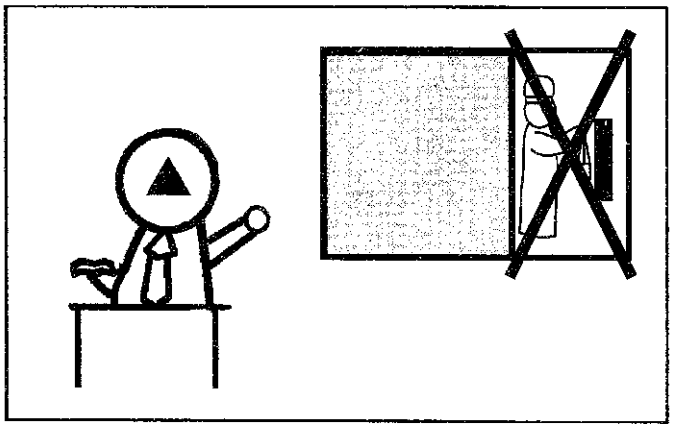
イエスの功績にのみひたすら頼る、純粋な信仰者たちを憎み、迫害した恐ろしい歴史の記録が残されている。E・G・ホワイトは「審判においてはっきりさせられるまでは決してわからないほどの規模の虐殺があった」（大争闘下326）と言っている。

「ローマ教会は、その権力を再び確立して、失われた至上権を回復することをねらっているのである。」大争闘下340

いったん「有利な立場」を得ると「手を下す」（同341）と預言されているにもかかわらず、今やプロテスタントは「この最も危険な敵の進出に」（大争闘下322）警告の声を上げなくなったのは、あまりにも不思議である。



セブンスデー・アドベンチスト



背教プロテスタント

舞台Ⅵ セブンスデー・アドベンチスト VS 背教プロテスタント

セブンスデー・アドベンチスト：

ウイリアム・ミラーをはじめ、再臨運動者たちは，第一天使の使命をもって民をキリストの再臨に備えようとした。約5万人の人々が再臨を迎えるためにプロテスタント諸教会を出た。「神のさばきの時」「聖所の清め」を再臨の時と思い、大失望を経験する。

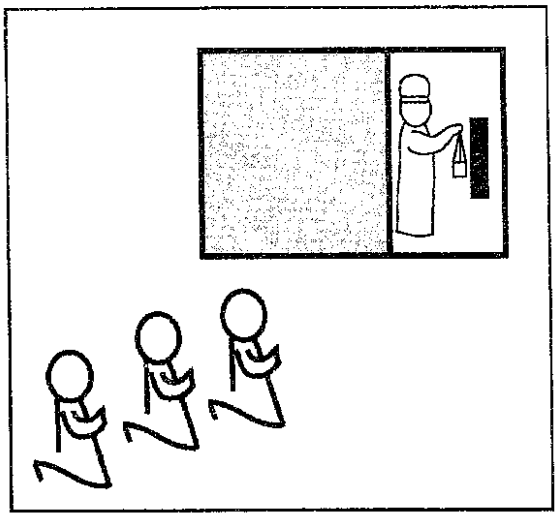
1844年の大失望後、イエスが大祭司として、至聖所に最後のあがないをするために入られたという真理の発見から、セブンスデー・アドベンチストが生まれる。彼らは信仰によって「小羊が行くところへはどこへでもついていく」。そして、再臨信徒は至聖所に大祭司キリストを見出した。またそこに契約の箱を見た。その中に神の十戒を見た。神のすべてのご要求に従うべき義務を知ったのである。キリストの再臨を待つ民は「神の戒めを守り、イエスの信仰」を持つ民であることを知った。彼らは安息日遵守の意味を知り、セブンスデー・アドベンチスト（第七日目安息日再臨教団）と名乗るようになった。喜びと希望に満たされて全世界に「残りの民」、「特殊な民」としてのろしを上げたのであった。彼らにまず「特別なあがない」「特別な清め」、神性と人性の結合＝「婚姻」への招待が与えられた。彼らは「神の特殊な民として」（5T78）全世界に出て行く。

背教プロテスタント：

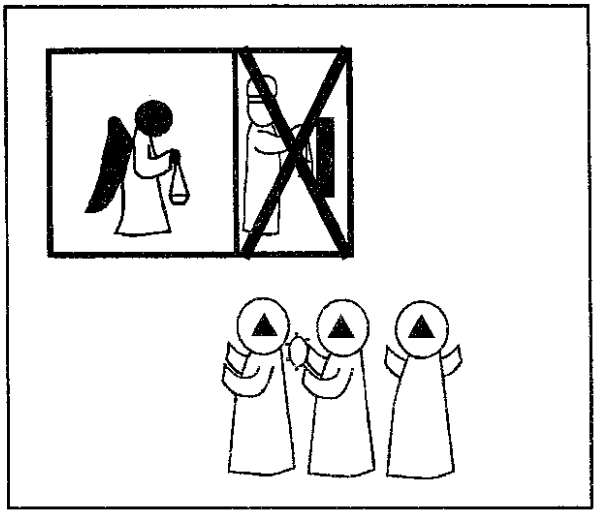
プロテスタントもテストされるときが来た。再臨運動の第一天使の使命によってふるわれることになる。アベルの信仰を持つ者たちは、諸教会から出てきた。「諸教会が、第一天使の使命を受けることを拒んだときに、彼らは、天からの光を拒否し、神の恵みを失った。彼らは、自分たち自身の力に頼った」（初文390, 391）。諸教会はバビロンとなった（大争闘下84）。「諸教会は現代に対する特別な真理を拒否しつづけてきたために、ますますひどく堕落してしまった」（同92）。「プロテスタント教会は大いなる暗黒の中にある」（同321）。

プロテスタント諸教会は、キリストの再臨に備えさせる仲保者イエスの最後の仕上げ「特別な（最後の）あがない」のなされる至聖所に従って行かず、また、ユダヤ人が過去の遺産に留まって救い主を受け入れず、行いによる義に陥ったと同じように、宗教改革者たちから受け継いだ信仰による義を誇っても、現代，神が提供されるものを拒むことは、行いによる義に陥ることになるのである。神の権威と方法を拒むからである。

プロテスタント諸教会は、肉体的な迫害を加えることはしなかったが，SDAに対して至聖所における仲保の働きの教理を突き崩そうと攻撃してきた。



至聖所に向かって祈る人々



聖所に向かって祈る人々

カインの中の2種類の人々
- ① 自分の功績によって、救われようとする者たち―「さばきの前に完全になる」説
- ② 罪の中にあって救われようとする者たち―「再臨の時に完全になる」説

舞台Ⅶ　二種類のセブンスデー・アドベンチスト

セブンスデー・アドベンチストの中に様々なグループがいると分析、指摘している「学者」らがいる。しかし、大きく分けて二つしかない。

「しかし、分裂が教会の中に来るであろう。二つの派（グループ）が発展するであろう。麦と毒麦が収穫の時まで育つであろう。」2SM114

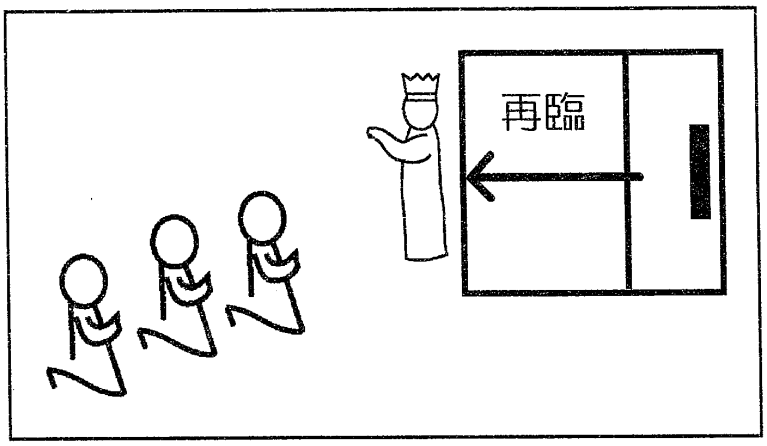
至聖所に向かって祈る人々：

初代文集437～440に、後の雨が注がれる直前の二つの群れの描写がある。一方は、実体のあがないの日に住んでいることを知り、「深い信仰と苦悶の叫びをあげて、神に嘆願している人々」であり、「暗雲をつらぬいて、天の聖所の第二の部屋に向かって」祈る人々である。彼らは至聖所における大祭司の働きを明確に理解しようと努め，あがないの日になすべきことを知って大祭司に協力する人々である。彼らは聖所の周りに集まり、魂を悩ます。自分の罪のために、教会の背教のために、キリストが今なお十字架の苦痛をもって執り成しをしておられるからである。更なる清めを求め，信仰による義認の完全にして、十分な経験にあずかるまでは満足しない。生ける者のさばきに深い悔い改めと信仰によって自首するとき、彼らは「新しい祭服の衣」「麻布のような、光り輝く衣」を着せられる。「二度とこの世の汚れに汚されない」「永遠に誘惑者から安全な者」とされる。彼らは後の雨によって神から嘉せられ、生ける神の印を受ける。これがSDAアベルなのである。

聖所に向かって祈る人々：

一方、SDAカインは、至聖所に律法を見て、神に嘉せられようと一生懸命自分の力で完全になろうとする。そしてさばきに備えようとする。さばきの前に完全に到達しようと頑張っている。また、逆にいくらがんばっても清まらない自分に失望し、完全になることは再臨まで不可能と自分で都合のよい神学をうちたてて良心を鎮めようとする人々もいる。両者とも至聖所に律法，神の義だけを見て，大祭司イエスを見失っている。その結果「アドベンチスト焦燥」に陥り、イエスをバビロン化したプロテスタント教会に見出そうとしている。諸教会は至聖所に背を向け、聖所に向かって「聖霊を与えたまえ」と祈るため、すでに「サタンの汚れた力を吹き込」まれつつある。「この苦悩と祈りに加わらない、不注意で、無関心」な人々は「平和だ、無事だ、教会は繁栄している」「危機は来ない、つるぎは来ない、災いは来ない」「すべては十字架で終わった」と言って、セレブレーションだ、歌えや、祝えや、踊れやの「ささげもの＝礼拝」をするのである。後の雨を 乞い求めても降らないので、ますます深い焦燥に悩まされるのである。

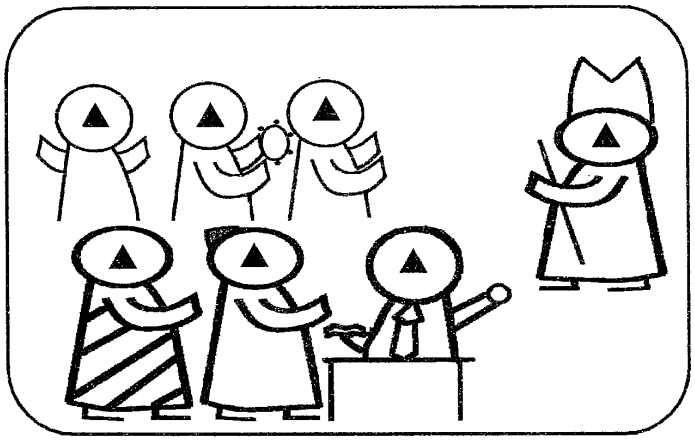
真のセブンスデー・アドベンチスト（残りの民）



144，000

（黙示録14章）

大宗教連合



666

（黙示録13章）

舞台Ⅷ　最後の戦い（ＴＭ17、初文439）

カインはアベルのささげものが神に嘉せられたので、しっとし怒ってアベルを殺害した。

● 現代のアベルのささげものはいつ神から嘉せられるのであろうか？いつ後の雨が注がれるのであろうか？いつ「使徒時代以来目撃したことのない敬虔のリバイバル」がくるのであろうか？

神が後の雨のリバイバルを注がれる順序を覚えておこう：

① 今日我々は実体のあがないの日に住んでいる。至聖所の大祭司イエスを仰いで魂を悩ます時である。自分の罪や、教会の背教のために、今なお十字架の苦痛をもって執り成しておられるキリストのために嘆く時である。賛美はいけないというのではない。深い悔い改めは必ず真の賛美と感謝で心を満たす。軽薄な精神は棄てなければならない（国指下195, 196、初文437－440、3T266, 267、5T474、エゼキエル9章、ヨエル2：15－28、ゼカリヤ12：10）。

② 日曜休業令から生ける者のさばきに移る。悔い改めと信仰によってさばきに自首する。罪深さの意識が最高潮に達する（国指下193、5T474）。

③ 永久に罪が除去される（国指下195, 196、5T475、大争闘下216, 217）。

④ 後の雨で生ける神の印が押される。品性は完成される。大いなる叫びに盛り上がる（初文439、440、使徒行伝3：19, 20、6T401）。

⑤ それが現代のカインを刺激し、怒らせる（初文440, 451）。

教会は清められ、ふるわれて後「しののめのように見え、月のように麗しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のように」なる。「しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会」になる（雅歌6：10、エペソ5：27。大争闘下141）。

それから「最後の戦い」が始まる。そして、そのことが我が教会に起こると、現代のカインは、その勢力を結集して、現代のアベル（神の戒めを守り、イエスの信仰を持つ者たち）に憤りを感じ、最後の戦いを挑んでくるのである。黙示録13章の666と14章の144, 000との戦いである。（ダニエル11：44, 45、黙示録12：17、13章、14章、17：14）。世俗のカインとSDAカインが合流し、結集する。そして、それまでに、世界は「一つの頭（法王権）の下に、神の民に対抗するため全世界が結合する」（7T182）。ローマは政治、経済を支配する（黙示録13、17、18章、ダニエル11：40－45）。そしてSDAカインは、「以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。」

「かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。安息日遵守者が法廷に呼び出されて、信仰について答えるときに、これらの背教者たちは、サタンの最も強力な手先となって、彼らを中傷し非難する。そして、偽りの報告やあてこすりによって、彼らに対する権力者たちの怒りをかき立てる。」大争闘下378

「真理を知って背教した者が最も苦い敵となる」という原則が歴史によって証明されてきた。

1. ルシファー
2. ユダヤ教
3. ローマ・カトリック
4. プロテスタント
5. 自称SDA（大争闘下378）

そして「最後の戦い」が展開される。すべての民族、宗教、教派にアベルのような与えられた光に忠実に従っている者たちがいる。最後の「我が民よ、バビロンから出てきなさい」との呼びかけに答えて多くの者たちが「残りの民」に加わる一方、SDAの「大部分の者」がふるわれ、立場を捨てるのである。最後の大争闘は神の権威、教え、命令と人間の権威、教え、命令との間で交わされるのである。

「真理と誤謬の最後の大争闘は、長い間続いてきた神の律法に関する論争の最後の戦いにほかならない。われわれは今や、この戦い、すなわち、人のおきてと主の戒めとの間の、また、聖書の宗教と作り話や言い伝えの宗教との間の、戦いに入っているのである。」大争闘下344

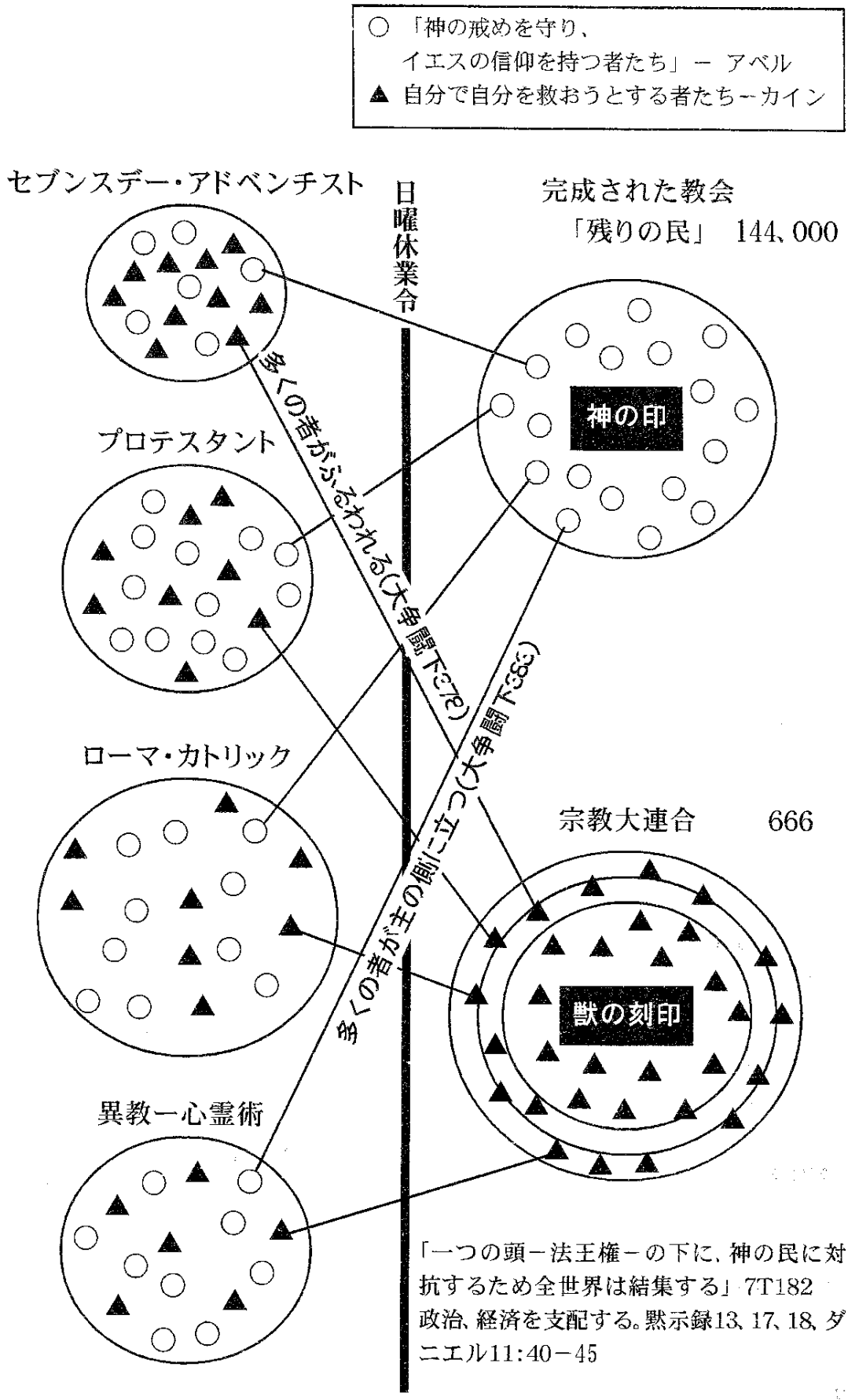
● 今、神の民はバビロンの中に多くいる。

「この聖句（黙示録18章）によれば、多くの神の民がまだバビロンにいなければならない。今、キリストに従うものの大部分は、どの宗教団体に属しているであろうか。言うまでもなく、プロテスタント各派の諸教会である。」大争闘下84

「バビロンを構成する諸教会は、霊的暗黒と神からの離反に陥っているにもかかわらず、その中にはまだ、真のキリスト者が数多くいる。」大争闘下92

「ローマ・カトリック教会の中に真のキリスト者たちがいることは事実である。」
大争闘下321

「さばきのときに、キリストからほめられる者たちは、神学についてはほとんど知っていなかったかもしれないが、彼らはキリストの原則を心に宿していた。天来のみたまの感化を通して、彼らはまわりの人たちの祝福になっていた。異教徒の中にさえ、親切心のある人たちがいる。いのちのみことばを聞かないうちから、彼らは宣教師たちと親しくなり、自分自身の生命の危険をおかしてまで宣教師たちに奉仕した。異教徒の中には、知らないで真の神を礼拝している人たち、すなわち人を通して光を与えられたことのない人たちがいるが、それでも彼らは滅びないのである。彼らは書かれ


○ 「神の戒めを守り、
イエスの信仰を持つ者たち」－ アベル
▲ 自分で自分を救おうとする者たち－カイン
セブンスデー・アドベンチスト
日曜休業令
完成された教会
「残りの民」 144、000
神の印
プロテスタント
多くの者がふるわれる(大争闘下578)
多くの者が主の側に立つ(大争闘下586)
ローマ・カトリック
宗教大連合 666
獣の刻印
異教一心霊術
「一つの頭－法王権－の下に、神の民に対抗するため全世界は結集する」 7T182
政治、経済を支配する。黙示録13、17、18、ダニエル11:40－45

預言の霊より参考引用文

①「パリサイ人と取税人とは、神を礼拝するために来る二種類の人を代表している。そして、その人びとを、この世界に生まれてきた最初の二人の子供たちがよく代表している。カインは、自分を義であると考え、感謝のささげ物をもってきただけであった。カインは、罪の告白をしなかった。彼はあわれみの必要も認めなかった。ところが、アベルは、神の小羊を予表した血をもってきた。アベルは、自分が罪人であり、失われた人間であることを認めて神のところにきた。彼の何よりも望んだものは、なんのいさおしもなくして与えられる神の愛であった。神はアベルのささげ物をお受け入れになったが、カインとカインのささげ物は、お認めにならなかった。神に受け入れられる第一の条件は必要感をもつこと、つまり、自分の欠乏と罪とを自覚することである。」キ実132

②「異教制度を通して、サタンは長年の間人々を神からひき離してきた。だがサタンの勝ちとった大勝利は、イスラエルの信仰を堕落させたことだった。異教徒は自分たちが考え出したものに心をよせ、そしてこれをおがむことによって、神についての知識を失い、ますます堕落していた。イスラエルもこれと同じだった。人は自らのわざによって自分自身を救うことができるという原則が異教のすべての宗教の根底にあった。この原則がこんどはユダヤ人の宗教の原則となっていた。サタンがこの原則をうえつけたのであった。この原則を信じているところではどこでも、人は罪に対する防壁がない。」希望上26

③「神に仕えていると公言しながら自分の努力によって神のおきてに従い、正しい品性を形づくり、救いを得ようとしている人がいる。このような人たちの心は、キリストの愛によって強く動かされたのではない。天国に入るために神が要求したもうものであるからというわけで、クリスチャン生活の義務を遂行しようと努めているにすぎない。そのような宗教はなんの役にも立たない。」キ道53

信仰の根源は愛である：

④「真の信仰は常に愛によって働く。あなたがカルバリーを見上げるとき、. . . イエスに対する信仰を創造する。その信仰は働き、利己主義の腐敗から魂を清める。」2SM20

服従の動機は愛である：

⑤「信仰は鎮静剤ではなく、動機、刺激である。魂を静め、義務を果たさなくなるように導くものではない。」ST64, 65

真の信仰は創造主なる神の権威を認め、神のすべての要求に従う。

⑥「キリストに全的によりたのむ真の信仰は、神のすべての要求に従うこととなってあらわれる。」人あ上69

⑦「主は大いなる憐れみのうちにワゴナー及びジョーンズを通して、ご自分の民に最も尊い使命を与えられた。その使命は、掲げられた救い主、全世界の罪のための犠牲をさらに顕著に世に示すものであった。それは、保証人であられるキリストを信じる信仰を通して与えられる義認を提示した。それは神のすべての律法への服従に表されるキリストの義を受け入れるように民を招くものであった」TM93。

●さばきにおいて大祭司イエスは勝利してきた者たちのために何を懇願されるか？

⑧「キリストは、ご自分の民のために、完全で十分な許しと義認だけでなくて、彼らが、ご自分の栄光にあずかり、ともにみ座につくことを求められるのである。」

大争闘下216

⑨「第三天使は、『ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰（イエスの信仰）を持ちつづける聖徒の忍耐がある』と言って、メッセージを終わっている。彼は、この言葉を繰り返したときに、天の聖所を指さした。このメッセージを信じるすべての者の心は、至聖所に向けられる。」初文414

⑩「わたしは御座の前に，再臨信徒たちを、すなわち教会と世俗とを見た。わたしは二つの群れを見た。一つは、深い関心をもって、御座の前に頭を下げていた。もう一つの群れは、無関心で不注意な態度で立っていた。御座の前で頭をたれていた人々は、祈りをささげて、イエスを仰いだ。...

わたしは、父なる神が御座から立たれて、炎の車に乗って幕のなかの至聖所にはいられ、お座りになるのを見た。それから、イエスが御座から立ち上がられた。そして、頭をたれていた人々の大部分が、彼とともに立ち上がった。わたしは、イエスが立ち上がられた後で、無関心な群集には、イエスから一条の光も輝かなかったのを見た。そして、彼らは全くの暗黒の中に取り残された。イエスが立たれたときに立った人々は、彼が御座を立って、彼らを少しばかり導き始められるのをじっと見つめていた。するとイエスは、彼の右の手を上げられた。そして、われわれは、彼がうるわしい声で、『ここで待っていなさい。わたしは、わたしの父のところへ行って御国を受けてくる。あなたがたの衣を汚さないようにしていなさい。しばらくすれば、わたしは婚宴に（婚姻から）帰って来て、あなたがたを、わたしのところに迎えよう』と言われるのを聞いた。そのとき火の炎のような輪がついた雲の車が、天使たちにかこまれて、イエスがおられるところに来た。彼は、その車に乗って、父なる神が座っておられる至聖所にはいっていかれた。そこでわたしは、父なる神の前に立っておられる大祭

司イエスを見た。彼の衣の縁には、鈴とざくろとがあった。イエスとともに立った人々は、至聖所のイエスを信仰をもって仰いで、『わが父よ、あなたの霊を与えてください』と祈るのであった。すると、イエスは、彼らに聖霊を注がれた。その息吹のなかに、光と力、そして多くの愛と喜びと平和があった。

わたしは、御座の前でまだ頭をたれている人々を見ようと思ってふりかえった。彼らはイエスがそこを去られたことを知らなかった。サタンは御座のそばで、神の働きを行おうとするかのように見えた。わたしは、彼らが、御座を見上げて、『父よ、あなたの霊をお与え下さい』と祈るのを見た。するとサタンは、彼らに汚れた力を吹きこむのであった。それらは、光と多くの力とがあった。しかし、あたたかな愛、喜び、平和はなかった。サタンの目的は、神の子供たちを欺いて、彼らを引きもどし、惑わすことであった。」初文124－127

⑪「至聖所におられるイエスに向かって祈りをささげている一団の人々から、あいついで離れていく人々を私は見た。彼らは出て行き、御座の前の人々に加わった。それで彼らはただちにサタンから清からざる感化を受けた。」エレン・G・ホワイトとその批評家たち624

⑫「しかし、分裂が教会の中に来るであろう。二つの派（グループ）が発展するであろう。麦と毒麦が収穫の時まで育つであろう。」2SM114

⑬「あらしが迫って来るとき、第三天使の使命を信じると公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰（立場）を棄てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっている。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般うけのする側を選ぶのである（選ぶように備えられている）。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。」大争闘下378

新刊のご案内

「現代の真理」改訂版

「群れが今必要としているのは『現代の真理』である。」初文137

この本を正しく研究するなら、再臨信徒の困惑を整理し、魂の飢えを満たす。さまざまな教理の風に吹きまわされることがない。セブンスデー・アドベンチストとして、再臨運動の過去と現在と将来に確信を与えてくれる。

今は完全は可能かと議論する時ではない。どのように完全になれるか、主とそのみ言葉に、「おきてと証」に問うべき時である。

- 「神よ、あなたの道は聖所にあり。」詩篇77:13(欽定訳)
- 「わたしは道である。」ヨハネ14:6

① 品性完成への道を聖所に見る。
② イエスの人性にその秘訣を見る。
③ 終末事件の研究から、今がその時であることを知る。さまざまな教理の風にふきまわされないために、正しく理解する必要がある。
④ 救いの計画は十字架で終わりではない。至聖所で完成される。イエスの十字架の苦しみは今なお続いている。何という驚くべき事実!

至聖所に輝く十字架を仰いで生きよとのメッセージに答えよう!
単純明瞭な説き明かし!キリスト再臨待望者の必読書!

主題別索引、聖句索引、証の書の索引付き、さらに質問でその答えを見出せるようにしてあるので便利!

1,500円

「前途の危機」The Crisis Ahead

将来のこと、恩恵期間の終わり、悩みのときのための備えの働き、救いにいたる知恵が預言の中にはっきり示されている。「しかし、多くの人々は全然啓示を受けなかったかのようにこれらの重要な真理を理解していない」(大争闘下359, 360)。それは「順序どおりに成就する」(国指下144)。

その順序を正しく理解していないと、たやすく道を失ってしまう。だから、霊感の言葉が必要なのだ。

質問一答えの形式で編集されている。
元E・G・ホワイト刊行協会会長のロバート・オルソン氏の編集　1,800円

ビデオ:「どの聖書?」「WHICH BIBLE」

聖書が次々翻訳されることはありがたい。が神のみ言葉に対するサタンの挑戦は最も巧妙になされている。「聖徒たちによってひとたび伝えられた信仰」、「混ぜ物のない真理」の聖書と改悪された聖書の二つの流れをたどる。

より良い聖書を選ぶにはどの本文を使って翻訳されたかを知る必要がある。

ジョー・マニスカルコ3,000円

近日発売予定

本:　『今は備えの時である』
　　黙示録13章と14章に見る危機と勝利

ビデオ:　『アルプスのイスラエル』――LLTプロダクション制作
　　ワルデンセスの驚くべき物語!

☆編集後記☆

今、我々は「迫り来る戦い」の時に住んでいます。まもなく「最後の戦い」の合図がなされるでしょう。我々は準備ができているでしょうか？

最後の戦いの焦点は安息日ですが、問題はどの日かということよりももっと深刻な問題が含まれています。「信仰による義」の正しい理解と経験が問われています。

「キリストの弟子であると自称する人々の中に、常に二種類の人々がある」(大争闘上36)。セブンスデー・アドベンチストという目に見える教会組織に属していることは決して救いの保証ではありません。

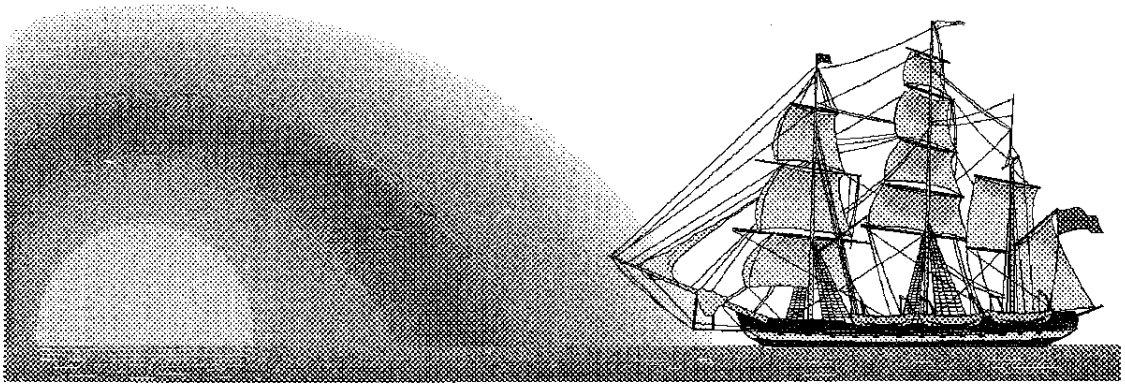
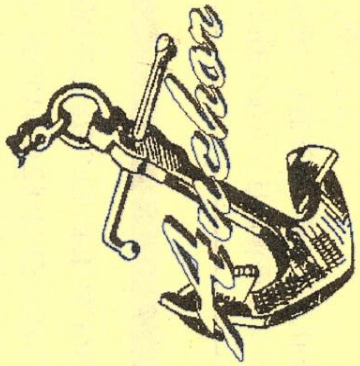
創世時代のカインとアベルから最後の「残りの民」セブンスデー・アドベンチストに至るまで信仰による義認の面から歴史を大観して、真の教会に属していることの確信と特権に感謝し、同時にどこに危険があるかに目覚めたいものです。

「宗教的危機における無関心と中立は、神から嘆かわしい罪と見なされ、最も悪い種類の神に対する敵意に等しいものである」(3T281)。

皆様のご意見、ご質問等をお待ちしています。尚、FAX番号が新しくなりました。

★ この印刷物は信徒の皆様の祈りと自由献金によって続けられています。
資料代や献金などの送金には郵便振り替えをご利用ください。
振替口座番号は下記の通りです。

０２０８０－０－１２１２１　　サンライズ・ミニストリー
住所：〒905-04　沖縄県国頭郡今帰仁村今泊1471
サンライズ・ミニストリー出版部　　金城重博
電話：0980-56-2783　FAX：0980-56-2881



Anchor アンカー 18号
1996 Vol.9 No.2
AUG. 20
平成８年８月２０日発行　第９巻第２号通巻１８号
サンライズ・ミニストリー出版部発行